

普及活動情勢報告（平成27年10月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

第19回JA南国市米づくり親子セミナー（稲刈り）開催



稲刈り体験をする児童ら

10月5日、南国市上倉地区において、JA南国市が第19回米づくり親子セミナー（稲刈り）を開催しました。後免野田小学校・三和小学校の児童52名とその保護者、地域の水稲農家、関係機関らが参加し、お米の学習や6月に田植えをした稲の収穫体験を行いました。

農業改良普及課はお米の学習を担当し、収穫からお米になるまでの過程に必要な作業や、その作業が今と昔でどう変わってきたのかについて説明しました。児童からは「南国市でカントリーエレベーターは使っていますか？」や「稲刈りまでにどんな農薬を使いましたか？」等の質問がありました。

農業改良普及課は今後も南国市の食育活動を支援していきます。

集落の農地を維持する仕組みづくり～香美市物部町五王堂地区の挑戦～



集落の代表者などと農地を巡回

10月14日、五王堂地区の代表者とユズの若手生産者と一緒に、農地の利用計画を作成するために現地を確認しました。農業改良普及課では9月9日に集落営農に取り組むかどうか住民9名と話し合ったところ、高齢化で農地の維持が困難となっているので、若者が青写真を描くためにも現地を確認することになりました。

参加者からは「民家周辺の農地は水田に適している」「ユズで生活するには2～3名の大規模経営となる」といった意見がだされました。

今後、住民の意向を反映して農地が維持できる仕組みづくりを支援します。

南国市農家レストラン「まほろば畑」が5周年を迎えました



グループの代表者とともにあいさつをする会長

10月13日に、南国市の農家レストラン「まほろば畑」が5周年を迎え、招待客26名を含めた約260名が来店しました。この日のために、役員会で四方竹の一口寿司など地元食材を使った特別メニューを決め、5グループが役割分担して20品の料理を準備し、接客・運営しました。グループの会長からは、「多くの方々の支援を受けて5周年を迎えることができた。今後も地元の野菜を使い、ほっとできるような料理を作っていきたい」とあいさつがありました。

農業改良普及課では、28年度からの新体制づくりのため、南国市や地域支援企画員と連携して、農家レストランの運営改善を協議・支援していきます。

新規就農の取組を検討



ユズ生産部会委員会

9月28日、JA土佐香美物部支所において、ユズ生産部会委員会が委員13名の出席により開催されました。会議では指導農業士候補の推薦や黄玉出荷検討会の開催、冬至用ユズの出荷予測について協議しました。農業改良普及課からは指導農業士と研修支援事業について説明しました。委員からは「来年早々に研修受入農家として指導農業士候補を数人選定する」や「就農地は生産者の減少により貸し農地が増えることが予想される」、「Iターン就農者に紹介できる住居が無いなどの問題がある」などの意見が出ました。

農業改良普及課はユズ産地維持のため引き続き新規就農者の募集や研修支援事業の活用、指導農業士確保の取組を支援します。

27年産の収穫を前に、JA土佐香美生姜生産部会が研修会を開催



優良ほ場で管理と作況を確認

JA土佐香美生姜生産部会は、9月25日に研修会を開催し、生産者43名が参加しました。

優良ほ場での現地研修では、「うねが高く排水溝の処理がきれい」、「株にボリュームがあり病気も見えない」等の声が聞かれました。室内研修では、農業改良普及課より営農の方向と体系防除の考え方を紹介したところ、土壌消毒や生育中の処理についての意見や質問が多く出され、病害に対する関心の高さがうかがわれました。

本年産の露地ショウガは、10月下旬より本格的な収穫期を迎えますが、春先の天候不順から作柄が懸念されています。農業改良普及課では、次年度の安定生産に向け、病害対策・組織活動を支援します。

スイカでの天敵活用実証



天敵のエサ用花粉を散布中

JA土佐香美園芸部スイカ部会（6戸、245a）は、ハウス栽培に取り組んでいます。昨年度からミナミキイロアザミウマ、タバコナジラミの防除対策として、天敵のスワルスキーカブリダニの活用を試みています。しかし、スイカやメロンは栽培期間が短く、天敵を効果的に活用するためには、早期に増殖することが望まれます。

農業改良普及課ではメロンにおいて、天敵のエサとなる花粉の供給により、天敵の増殖が促進されることを確認しました。そこで、9月からスイカの抑制栽培ほ場1か所で、花粉の供給効果についても実証試験を行っています。

ニガウリ栽培管理の最適化

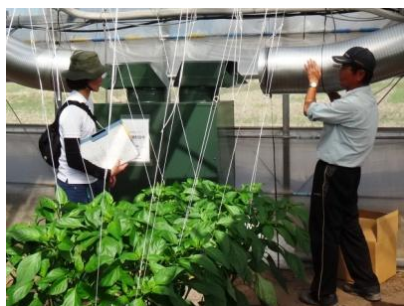


ニガウリの生育調査中

J A土佐香美夜須支所管内ではニガウリのハウス促成栽培が 5 戸、110a で行われています。そのうち 4 戸に炭酸ガス発生装置が、1 戸にハウス内環境モニタが導入されていて、収量・品質の向上に取り組んでいます。現在ハウス内環境、整枝などの栽培管理は生産者個々で違っており、生育収量に差が見られます。そこで農業改良普及課では、9 月から 2 か所のは場で実態を把握するためのハウス内環境測定と生育調査を行っています。

今後は調査結果を分析し、最適な栽培管理について検討していく予定です。

環境制御技術について指導 J A土佐香美ピーマン・ナス個別巡回から



炭酸ガス施用方法を検討

10 月 19 日、農業改良普及課は環境制御技術導入加速化事業で炭酸ガス発生機等を導入した管内農家 3 戸に個別巡回指導を行いました。ナス、ピーマン、シシトウ等の果菜類の品目を中心に、摘芯までの初期の樹づくり、機器・装置の使用手法、生育調査の方法と診断結果に基づく管理方法等について毎週助言しています。この日は、機器設置後の圃場に出向き、局所施用のやり方や設置場所等の相談に対応しました。局所施用圃場なので 11 月上旬頃には炭酸ガス施用を開始したい意向でした。

今後もしめ細かな対応で、炭酸ガス施用技術等導入農家の増収に向けて支援します。

環境制御技術を全品目に ～香南市認定農業者連絡協議会総会～



講演する環境制御技術普及推進員

9 月 19 日、香南市認定農業者連絡協議会は、香我美市民館で平成 27 年度総会を開催し、認定農業者・関係機関ら 36 人（うち生産者 15 人）が参加しました。農業改良普及課は「環境制御技術導入加速化について」をテーマに環境制御技術の基礎知識について講演しました。今回出席した認定農業者は果菜類、根菜類、葉菜類、花卉等多岐に渡っていますが、情報交換会では「転流の最適な温度は？」「散光性フィルムの特徴は？」「炭酸ガス施用方法は？」等の質問が多く、環境制御技術に関心が高いことがわかりました。

農業改良普及課は、環境制御技術に関する積極的な情報提供を行いながら、普及に向けて支援します。

多収技術を現場に！ ～炭酸ガス研究会 10月の勉強会から～



担い手育成センター担当者から成果報告

10月2日、香南市で炭酸ガス研究会は、農業担い手育成センターの実証成果をテーマに定例会を開催し、生産者・関係機関ら33人（うち生産者15人）が参加しました。農業担い手育成センター職員から、ナス、ピーマンの収量が25t/10a以上となった要因（炭酸ガス施用方法、かん水方法、整枝等の管理等）の説明を受けました。参加者の中には、今年度作から事業を導入して炭酸ガス発生機等を導入した人もおり、施用方法等について質問が多くいただきました。

農業改良普及課は、同研究会の活動を支援しながら、環境制御技術による増収を目指して支援します。